

診断あきた

◆発行 社団法人 中小企業診断協会 秋田県支部
〒010-8572 秋田市山王3丁目1番1号 県庁第2庁舎
秋田県企業支援センター内
TEL 018-860-5512 FAX 018-823-8257
E-mail jsmeca05@ma3.justnet.ne.jp
ホームページアドレス http://www.shindan-akita.com/



平成15年3月24日

第11号

調査・研究事業報告書 発刊!

= 地元紙でも注目! 反響も続々! =

当支部平成14年度の最重点事業として取り組んで参りました第2回調査・研究事業の報告書が完成し、このほど発刊いたしました。「ブランドづくりに挑む中小企業～秋田県内企業のブランド戦略に関する調査～」と題した報告書は全72ページ。会員・関係先へ約250部贈呈しました。

各方面からご好評をいただいております、好反響を呼んでいます。

平成14年度マスターセンター補助事業

ブランドづくりに挑む中小企業
～秋田県内企業のブランド戦略に関する調査～
報告書

平成15年1月

社団法人 中小企業診断協会 秋田県支部

各章は次のとおりです。

はじめに… (本間支部長)

第1章 今、何故ブランドなのか～テーマ選定の理由と背景

第2章 これからのブランドづくり

第3章 秋田におけるブランドづくりの方向性

第4章 「ブランド」づくりに挑む秋田県内企業 (事例紹介)

1. 普段着の温泉宿に徹する配慮が更なる人気を呼ぶ……………(有鶴の湯温泉)
2. 「人との出会い」にグリーン・ツーリズムのあり方を求めて…農家民宿・果夢園
3. 環境変化に対応した新ブランドの開発……………秋田酒類製造㈱
4. 新たな潜在需要の発見で比内地鶏に流通革命……………秋田比内や㈱
5. 味噌・醤油・漬物の製造販売にCRM手法を導入……………(株)安藤商店
6. 納豆は地球を救う……………(株)ヤマダフーズ
7. ローカルブランドからナショナルブランドへ……………林泉堂㈱
8. 頑なに伝統を守りながらも、常に新しい挑戦を続ける……………(有)佐藤養助商店
9. 秋田の産地から 新たな需要を創造する……………庄内鉄工㈱

第5章 ブランド価値に目覚めた秋田県内企業

付表…… (秋田県の人口の推移、秋田県の年齢別人口と人口割合の推移)

おわりに… (佐藤委員長)

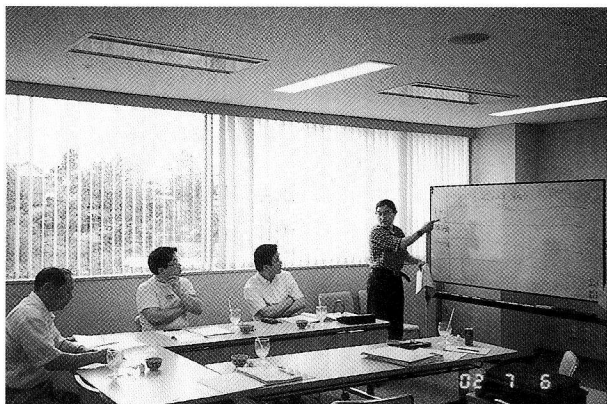
平成15年2月14日(金)秋田魁新報朝刊では、経済特集面を使って本報告書が取り上げられました。

『ブランド確立が不可欠～中小企業診断協会県支部提言「有形無形の資源活用を」』という見出しで、報告書の概要が紹介されています。

秋田ブランドとして成功した「あきたこまち」のほか、ヒアリングにご協力いただいた9社の中から「廉価戦に参入しなかった秋田酒類製造」「リピーターに照準を合わせた鶴の湯温泉(写真入り)」の2社について内容が簡記されています。そして、『同支部は「消費者ニーズは価格志向の一方で自然や本物志向を強めている。県内企業も、恵まれた自然や資源を生かして自社のブランド戦略に取り組んでほしい」と話している』と結んでいます。



調査・研究事業委員会 ドキュメント



◆テーマ選定◆

【14.5.25～7.20】

大まかなスケジュール確認とテーマを検討しました。テーマ選定に当たり、委員各自にテーマと取材候補企業のリストアップを依頼し、それらを「経営ビジョン」「技術力」「ブランド」「デザイン」「マーケット」「人材」「IT活用」「業績」の各キーワードに当てはめてマトリックスを作成。統一テーマを確定すべく、議論を積み重ねました。その中から「ブランド」という切り口が見え始めました。

◆情報収集◆

【14.8.3～9.19】

仮のテーマを「一流ブランドづくりに挑む地場産業」とし、関連する参考文献やデータ収集を始めました。当初リストアップした企業は30社以上で、その中からさらに絞り込みを行い、合わせて報告書のスケルトンの検討も開始しました。

また情報収集の一環として、熊井会員（㈱いなにわ社長）を招いて、比内地鶏に関するお話を聞く機会を設けました。



◆取材・原稿執筆◆

【14.10.12～12.21】

第4章の事例紹介として、各委員が分担して取材応募企業へ実際に出向いての取材を開始しました。そのほか、各章の執筆担当者を決定。取材はもちろん原稿執筆、進捗状況把握のための委員会開催も原則として土日となるため、委員の皆さんはこの時期休日返上の状態が続きました。

さらに1月末までには発刊する計画となり、年末までに脱稿すべく執筆作業に拍車がかかりました。

◆最終校正・発刊◆

【15.1.6～1.25】

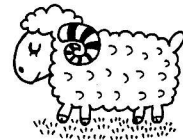
年初にグラ刷り完成。各自で細部の校正作業を行うと同時に字句・字体・文章表現の統一を図りました。表題は最終的に「ブランドづくりに挑む中小企業～秋田県内企業のブランド戦略に関する調査～」と決定しました。

数次に渡る校正を経て報告書が完成。早速関係先等へ発送し、またマスコミへのリリースも行って約8カ月に及んだ調査・研究事業が終了しました。



老年生まれ特集

今年の干支は『未』。
支部会員の年男は
お二人です。



『歳経る記』



秋田県産業経済労働部

富野 忠雄

功なり名遂げた人生の先達の懐旧談からは、生きることの貴重な機微が学ばれます。しかし、未だ人生に悪戦苦闘している我が身を省りみますと、物理的には年男ではあっても、果たして如何なものか感じつつ、キーボードを叩いております。紙面を汚しただけと感じられた節は、何卒御容赦ください。

○ 事務分析記号に出会って吃驚！

木村伊兵衛先生の昭和30年代後半の秋田市の写真に、角巻姿の女性や箱ヅリが映し出されている時代背景を見て、「アレッ、昭和30年代後半って、まだこんなだっけ？」と驚きつつも「そうなんだよな！」と時の流れを納得しました。考えてみると、昭和41年4月、京王線初台駅近く（要するに新宿の近く）から、最初の勤務地である能代駅に下り立った時、駅前にパチンコ店のネオンがポツンと1つあったのに、妙な淋しさを感じたものでした。当時は、事務所には電卓はなく、計算といったら算盤か、歯車をガチャガチャ回しチンとなる「タイガー計算機」等のカリキュレーターが幅を利かせておりました。私奴は不動産取得税の担当で、評価には計算機は欠かせぬものでして、当時は文字通り、大変お騒がせ致しました。（遅れ馳せながらお詫び申し上げます。）因みに、建物評価担当者の特性(?)で、その時会った人の顔は覚えていないものの建物の凶面をみると状況が蘇るのは職業病だったのででしょうか。また、建物調査で、ある集落に行った時、濁液検査と間違われ、人っ子1人いないと言う時代環境でもございました。

しかし、この時代背景の中で驚いたのは、事務の流れが事務分析記号を駆使したフローチャートで標準化されて示されており、これが「事務提要」として全員に交付され、初任者でも直ちに事務処理が出来る様になっていたことです。当時自治省から派遣されていた若手課長が自ら進めた、今で言う改革路線だった様ですが、（法律が嫌いでも）事務分析記号には馴染みのあった私奴には大変有り難いことでした。取り敢えず新鮮な驚きでのスタートでした。

○ 男と男の固い約束

古い言葉で言うと、私奴が「診断指導」業務に携わることになったのは、昭和48年からです。この年、税務から足を洗って産業経済労働部経営指導課に異動

し、10月から中小企業大学校中小企業診断士養成課程に参りました。研修期間中には「ヨンパチ豪雪」や、折からのオイル・ショックに直撃されることはございませんでしたが、昭和49年10月、1年間の研修終了後、利息をつけて貴重な経験をさせて頂きました。即ち、「列島改造」で、あとから設備投資をした企業群は厳しい経営環境を迎え、資金繰り診断(?)に追われました。これは金融機関でなく行政に属する中小企業診断士としては、得難い経験をさせて頂いたと感じております。（しかし、二度目の経験は決してしたいとは思いません！）なにしろ、生の経営情報をベースに、週単位での資金繰り表作成のアシストをする訳ですから、経営者の方が課題をどう判断し、行動していくのかと言うプロセスを、息吹を、具体的に間近で観察（失礼かな！）出来ましたので。

この経験の中で、受取手形を支出で、支払手形を入金で処理せざるを得ないケースがございまして、その理由を問うたところ「男と男の固い約束」としか答えて頂けませんでした。結果として、「男と男の固い約束」とは「男と女のソフトな約束」より当てにならないことを見事に立証してくれまして、これらの企業は市場からの撤退を余儀無くされました。「士は己を知る者のために死し、女は己を説ぶ者のために容づくる。」（史記；刺客列伝）とは申しますが、相手が死するべき者に値するかどうかを考えよと言うは、私奴が余りにも俗人だからでしょうか。

時は巡り、今も厳しい経営環境にあります。企業存亡の瀬戸際にある時、どうしても当面の資金手当等の延命策に走り勝ちですが、利益構造に改善の手が打たれない限り、結果としての赤字の拡大再生産は避けられません。敗戦で何もかも失った焼け跡から立ち上がるのは厳しいことです。再起を見越した終戦処理が何よりも大事です。バブル崩壊後で海外シフトが顕著になり始めた頃、「いろんなシミュレーションを行ったが明るい展望は開けてこない。残念だが体力のある内に事業を閉鎖することにした。お世話になった方に予めお知らせし、謝意を申したい。」との連絡をして、綺麗な引け際を見せて頂いたケースもございましたが、概ね30年に亘る診断指導業務の間、見事な終戦処理をみることは少なく、誰もいない住居の前に子供の三輪車が転がっている風景を見るのは辛いものです。

しかし、稀には見事に苦境を跳ね返し、優良企業と

なった事例もございます。苦境に陥った時に、人は真価を問われると申します。この間、経営者は来るべき時代の経営環境を予測し、当社の位置付けを明確にし、それを踏まえた経営方針を策定し、全員に周知し、その成果と評価のマネジメントサイクルを回し、次代を担うべき人材を抜擢すると言う措置は勿論講じておりましたが、この時感心させられたのは、経営者の自らを律する厳しい姿勢でした。苦境を招いた責任は経営者にあるとして、旅費の辞退や最低賃金以下の役員給与を自らに課し、このことは箝口令を敷いていましたが、「社長があそこまで自分を律している。」と言うことが何時しか従業員に知れた時、この企業の組織風土は大きく変わりました。「人生の大病はただこれ一の傲の字なり。」(伝習録)と申します。失敗を避けるためには謙虚な気持ちで「苟に日に新たに、日々に新たに、又日に新たなり。」(大学；中庸)と、前向きに課題を捉えていきたいものです。

○ 敵兵を倒せずして、戦略を語るな！

昭和の時代は勿論のこと、平成の始め頃までは、「行政の診断は戦略分野に関わってはいけない。」と言う暗黙の了解がございました。(私奴の記憶では、全国的な行政側の自主規制だったと思います。)
「勧告」あるいは「提案事項」はあくまでも経営者が取捨選択して実行するものだとは言っても、「勧告」あるいは「提案事項」どおり実行して倒産した場合、行政不服審査が出た時への対応だったかと推測致しております。

しかし、使うなと言われると使いたいのが人情でございまして、ある企業の販売管理の診断報告で、うっかりマーケティング戦略と言った途端、元陸軍将校で

あった役員から「鉄砲を撃って敵兵を倒せぬ者に戦略を語る資格はない。」とキツイー一言。確かに、戦略は個々の戦術に裏打ちされてこそ効果あるもの。以降、このことを深く肝に銘じ、具体のデータの収集に心しております。現在至る所で「戦略」と言う言葉の氾濫がみられます。出典は忘れましたが「小長に向かう毎に揚として侮りを生じ、時に不遜を集めて自ら尊と称す。」ことのない様、処していきたいものです。

○ 周囲の人に支えられて

時折、時間があれば、東京都台東区にある樋口一葉記念館を訪ねます。御存知の様に、樋口一葉は24歳5ヶ月で亡くなっております。父親の事業の失敗から、幼い頃の裕福な暮らしから、後半は病氣と厳しい生活との闘いの中で、僅か数年の間に「たけくらべ」や「にぎりえ」等数多くの名作を生み出しております。最初にここを訪れたのは文学が地域おこしの起爆剤になるのかをみてみたいと思ったからですが、その「生き様」をみるにつけ私奴の訪問動機の不遜さを愧じております。

しかし、この生き様は、凡人である私奴には真似の出来ない話で、企業の経営者の皆様、故武田前秋田県支部長、本間現支部長、三宅右倅師、渡辺健一郎師、故井上富雄師、中小企業診断協会秋田県支部の会員の皆様等多くの先達からの御指導を頂き、伊藤隆造師、佐藤勲師、村山師等の良き輪に恵まれ、三浦師、佐藤善友師、佐藤徹師等の素晴らしい仲間を支えられて参りました。これも何かの縁とし、還暦を迎えた老人を、今後とも宜しく御指導の程御願ひ申し上げます。

『超私的末年音楽史』

北都銀行 審査部

佐 瀬 道 則

私は1955年(昭和30年)乙(きのと)末年生まれである。この年は映画「暴力教室」が封切られ、テーマ曲の「ロック・アラウンド・ザ・クロック」が大ヒットしたことから、一般的にロック元年と呼ばれている。

1967年(昭和42年)丁(ひのと)末年。ピンク・フロイドのファースト・アルバム「夜明の口笛吹き」が発売され全英ヒットチャートのベストテン入りを果たす。当時としては摩訶不思議なプログレッシヴという新しいジャンルを切り開く画期的なグループの登場であった。「原子心母」「狂気」「炎」等いつまでも余韻が残る構成のアルバムが多い。

1979年(昭和54年)己(つちのと)末年。イーグル

スの実質ラストアルバムである「ロング・ラン」発売。前作の「ホテル・カリフォルニア」で「私共は1969年以来、スピリットを置いてございません」と唄ってロック史上に問題を投げかけた名バンドが実質的に活動を停止しようとしていた。「ならず者」「呪われた夜」等、体に染み込むサウンドが心地よい。

1991年(平成3年)辛(かのと)末年。ポール・サイモンがニューヨークのセントラルパークでソロ・コンサートを開催。1967年の末年に映画「卒業」のサウンドトラックを担当して大ブレイクしたサイモン&ガーファンクル。詞とメロディと二人のハーモニーが絶妙のバランスを保っている。

そして今年、2003年(平成15年)癸(みづのと)末年。グラミー賞の授賞式のオープニングを飾った曲は、功労賞を贈られ約10年ぶりに共演したS & G二人の「サウンド・オブ・サイレンス」であった。

そんな訳で、中年洋楽小僧の私、たぶん還暦を迎えても好きな音楽って変わらないんでしょうね…。

理論政策更新研修 開催

平成14年9月7日（土）みずほ苑を会場に開催しました。日程は次のとおりです。

「創業・新事業展開とビジネスプラン作成支援」	中小企業診断士	松本 敏 先生
「新しい中小企業の施策」	秋田県産業経済労働部 部長	吉野 恭司 先生



松本先生

松本先生からは、「創業の現状」として中小企業白書から見た創業者の特徴的な点。「創業に関する相談・支援にあたっての対応ポイント」として、構想段階、準備計画段階、創業準備に各段階に応じた対応の留意点のほか、「新事業展開支援のポイント」「コーディネート活動」についてご講義いただきました。

このほか創業支援の際に中小企業診断士が果たすべき役割やチェックポイントなどについても、OHPを使って分かりやすくご説明いただきました。

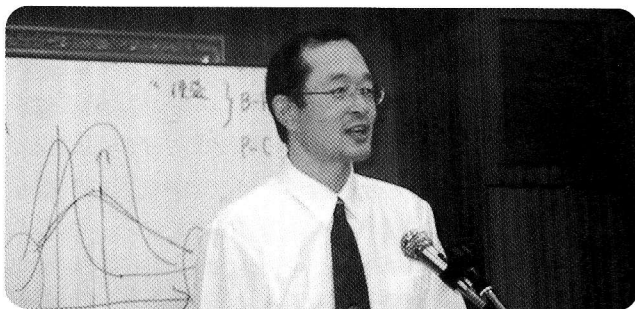
吉野先生からは、「県内経済の動向」「産業・雇用分野における課題」「秋田県における企業活性化・雇用緊急対策」「新規開業の大切さ」「グローバル化が進展する中での産業政策」「企業再生・経営支援」「マーケティング」など、多方面から見た秋田県経済の現状と課題についてお話をいただきました。

ノー原稿で本県の活性化策について熱く語っていただき、診断士の関わり方についても言及されました。



吉野先生

支部研修会 開催



平成14年11月30日（土）アルバートホテル秋田を会場に、支部研修会を開催しました。

講師は国民生活金融公庫秋田支店次長の杉村樹可（きよし）氏で、「IT時代を切り拓く女性起業家たち」と題してご講演いただきました。

「女性労働力の現状」「起業の現状」「Three Generic Strategiesから見た女性起業家たち」「モチベーションから見た女性起業家たち」「経営に女性の長所を生かす」などの項目について、これまで先生の研究の一端をご紹介してもらいました。マイケル・インポーターの基本戦略や知覚便益・価格とコストの関係論、差別化戦略の具体的事例紹介にも触れられ、たいへん充実した内容となりました。

会員の関心も高く、数分間の質疑応答時間では足りなかったようで、講義終了後の懇親会でも先生を囲んで話の輪が広がりました。

新入会員プロフィール紹介

平成14年11月入会の新入会員をご紹介します。掲載項目は以下のとおりです。

- ①登録番号 ②生年月日(年齢) ③自宅住所 ④自宅電話 ⑤Eメールアドレス ⑥勤務先
⑦勤務先住所 ⑧勤務先電話・FAX ⑨主な研究テーマ ⑩趣味・特技 ⑪『好きな言葉・座右の銘』



柴田 敬二

- ①400867
②昭和46年1月21日(32才)

③〒012-0841

湯沢市大町2丁目1番19号
ノースキャピタル202号室

④TEL(0183-72-0975)

⑤cage.s@mbd.nifty.com

⑥(株)北都銀行 湯沢支店

⑦〒012-0841 湯沢市大町2丁目1番13号

⑧TEL(0183-73-3101) FAX(0183-73-2978)

⑨「起業家の発掘とその支援策について」

「生産管理のあり方」

⑩スポーツ観戦、スノーボード

⑪『報われない努力はない』

寄稿

『企業診断士から みた道三と早雲』

工藤経営診断事務所
所長 工藤 義和

I. 斉藤道三の領国経営

我々は所謂戦国時代という群雄割拠した時代の盛衰については、後に世が安定した江戸時代に書かれた書物によってその動向を教えられるわけであるが、よく考えてみれば江戸時代の人々が戦国の世の現場を見ていたわけではないし、事実については誤認あり、誇張あり、想像ありというのが実態であろうと思わざるをえない。

なかでも美濃の国の領主斉藤道三に対する一般的評価としては「蝮の道三」と呼称されるように、もともと一介の商人であった者が自分を雇ってくれた旧領主を次々に追放し、しまいには自身が領主に収まったという江戸時代の儒学の倫理観からみれば極悪非道な人物というものである。しかし冷静に道三の領国経営を辿れば、現代の企業経営にとって示唆に富むものがある。

もともと道三は京都の山崎屋なる油商人山崎新九郎を称し、諸国を行商する身であつたらしいが、美濃の国の守護土岐氏の重臣斉藤家に仕官し、その後斉藤家

の当主、土岐氏の当主それぞれを追放した。ただその間、道三は領国経営として次々と新しい施策を講じている。

まず有名な「美濃の関所払い」がある。当時の戦国大名は領国の要所々々に関所を設け、通行料を徴収していた。関所はもとは軍事上の安全確保と情報管理が主目標であったが、度重なる関所料の値上げにより重要な財政収入と化している。しかしこれは、全国を取引エリアとする有力な商人にとっては商取引の活性化にとって誠に不都合なのである。もと商人であった道三でなければ取り得ない経済政策であった。これまで尾張、近江、丹波のルートを利用していた商人が、美濃に集中したであろうことは想像にかたくない。美濃領内の経済が活性化した。また商人の経済活動に対する助成措置が講じられている。後の楽市楽座の原型がある。つまり、後の信長秀吉時代に体制化された経済政策は、すでに道三が開発しているのである。信長秀吉はそれらを踏襲したにすぎない。

このように時代に即応した斬新な経済政策は、おそらく従来の土岐家、斉藤家の重臣たちを圧倒したと思われる。財政難を救う救世主として領主に担ぎ出されたとみるのが至当ではないか。行政能力はないが出自の正しい由緒ある殿様のもとで倒産の憂き目にあうか、素性ははっきりしないが行政手腕の有能な指導者のもとで働くかの選択に迫られたら、ありそうなことではないか。「蝮の道三」だけでは片付けられない一面がある。

II. 北条早雲の領国経営

同じように北条早雲も後世の評判があまりよくないように思われる。

どの地方にもお国自慢があり、相当評判の悪い殿様でも地元では高く評価されている例は多い。おそらく小田原市辺りの早雲評価は高いと思われるが。早雲が「入道早雲」と称されるのには、隠居出家して頭を丸めたあとでも、野望に燃えて周辺の両国侵略に夢中になっているというニュアンスがある。俗に手のつけられない乱暴者という評価に聞こえる。

早雲は今川義元の妻の実兄とされていて、今川家のもめごとを調停するふれこみで駿河の国に入り、後に隣国相模の領国に渡って、ついには旧領主を駆逐して領主に収まったことになっており、戦国下克上の典型として道三と共に悪名たかい。しかし道三が卓越した政策マンであったがゆえに領主たり得たと解釈されるように、早雲の経営も善政である。

俗に「相模の四公六民」は有名で、当時の五公五民の標準税率に比べ、領民にやさしい制度となっている。いや標準税率はもっと苛酷だったかもしれない。私などは七公三民などと囁かれたからこそ戦国の世へと乱れていったと解釈している。この分の税収不足は何で補われたか興味のあるところだが、北条家家訓「北条二十一ヶ条」にその答えを読みとれる。このなかの一条に「領主およびその家来たる武士階級は、領民の役に立つためにあるのであり、領主達のために領民があるのではない。武士階級は領民の負担にならないよう質素儉約に努めて領民を富ますように。」という意味の条文がある。私は「北条二十一ヶ条」の全ての精神は、この一条に集約されるものと思う。北条早雲の高い政治哲学を感じるのは私だけではあるまい。

旧領主の社員はじめ領民が感激して勤労に励み、相模の国の経済は安定した。北条三代にわたり、その威勢は関東にまで及び関東公房上杉憲政をして、越後の長尾影虎（後の上杉謙信）の出兵要請の下知をせしめている。領民が領主の失政に苦しみ難渋していても支配者階級は依然として華美に耽り、その贅寄せを増税により賄おうとする領主よりも、領主はじめ支配階級が節約に努め、減税する領国のほうが領民に支持されて領地が拡大したとしても批判にはあたらないであろう。我々は短期間のうちに領国経営の安定に成功した早雲の経営ノウハウについてもっと注目していいと思う。

III. 道三、早雲の経済的評価

戦国時代の地方大名の足跡をみるときは、主として軍事的な動静を検証することが刺激的であり、つまり視聴率が高まるということだろうと思われるが、現実

の事績については、裏付けとなる経済的な側面を見逃すわけにはいかない。

道三が瞬く間に美濃に軍事大国をつくりあげた背景には、前述のごとくまず領国内の経済を活性化させた実績を評価しなければならないであろう。道三は流通経済の変化を身をもって体験しており、農業生産物だけに頼りきった財政政策の限界をよく承知していたと思われる。商人の産みだす経済的付加価値を的確に認識し、財政政策に取り込んだのである。領内の商人の経済活動を保護しその付加価値に課税することは、課税水準が適正なかぎり商人側にも異論はない。室町時代の古い体制にどっぷりと浸かっていた領主達には及びもつかない発想である。古い体制の領主達には商活動を保護するという発想はなく、ただやみくもに冥加金を課するという策のなさである。現場を知らない官僚的な旧体制が徒に氏素性などの権威で領国経営したのに対し、氏素性は多少劣るが現場を熟知して適正な対応をした新体制の領主が台頭したとしても不思議はないのである。

道三は晩年、息子竜興（実子ではなく前領主の子とされている）との確執から悲惨な最期であったが、その卓越した財政経済政策は娘婿の織田信長に継承され、さらに豊臣秀吉の政策につながった。道三としては、これを諒としなければならないのではなからうか。

さて早雲の善政は先に触れたが、その伝統はしばらく続きその覇権は関東平野に及んでいる。関東管令上杉憲政は北条の関東侵食に業を煮やし、自らは財政難のために出兵できず、越後の長尾影虎（後の上杉謙信）に対し北条討伐を命じている。律義な影虎は遠路北条討伐にむかい、関東平野における北条の影響力の排除をはたす。このとき影虎には何らの恩賞もなく、影虎自身は不平一つ言っていないらしい。関東管令といえは室町幕府の第二将軍といわれるほどの格式なのだが、すでに手もと不如意なのだ。室町幕府はこの事実ひとつとっても実質崩壊していたとみてよい。

越後勢の圧倒的な軍事力の前になすすべなく後退を余儀なくされた北条は上杉、影虎との和睦を忠実に履行するのだが、北条の支配下から再び上杉の支配下に戻された領民の代表から北条家あてに送られた書状が現存しているという。つまり、「越後勢はすでに撤退したので再び北条の傘下に入れてもらえないか」という要請文書である。華美に慣れきった関東管令家の徴税に堪りかねて、税率の安い北条方に助けを求めている姿が浮き彫りになっている。

戦国大名の版図拡大にも、常に背後に経済事情が絡んでいることを忘れてはならない。

連載

『般若心経とは』

～その3～

株東北芝浦電子

樋口清行



宇宙と心

夏休みになるとNHKラジオで子供電話相談室という番組がある。その中で必ず出てくる質問の一つに、宇宙には果てがあるのかなのか、その構造はどうなっているのかという小学四～五年生からの問いである。識者の答えは、観測してみても分かっているのは銀河間の距離がどんどん拡大して、石鹸のあぶくのように膨らんでいるらしい。どこまで膨張するのか、その先に果てはあるのか本当のところは良く分からないという。

仏教には虚空という概念がある、空虚ともいう、虚空の中に宇宙があるのか、宇宙そのものが虚空であるのか判然としない。心経はこの宇宙と人間の心意識との関係をといている。禅門では、ひたすらに座禅して宇宙とぶっ続きの自己を知れという。

経文のとくところは、人間の心意識の作用も実体というものはなく、遍在する法は空という本質を持っており、観音の眼で見れば、生起することも滅滅することもなく、汚れることも汚れるという現象を離れたものではない。人間の五感の対象もなく、それゆえ心を覆い妨げるものもないととく。その法（ダルマ）と一体になれるというのである。こんなふうに言われても、そんなロジックについて行けるものかと誰しも思う。

そこで科学用語に置き換えて説明する、現代物理学では人間の認識を超える状態を無か空とかであると決

めて、心意識が認識できる世界として宇宙が誕生したと考えている。地球上の生物体の感覚は全て変化量で認識しているの、香りでも音でも同じものが持続していると感じなくなる。人間が認識できない彼方にあるものを「一様性」とか「均一性」という「他とは区別できないもの」と定義している。

例えば厚さが均一で完璧に磨かれているガラスは、そこにガラスがあるのかどうかさえ分からない。しかし、そこに厚さが不均一だったり、汚れていたりすると、ガラスを透して見える風景が歪んだり、シミになって見えたりする。この「対象性の破れ」または「ゆらぎ」のようなものが起こったときに、認識できる対象としての宇宙が誕生するということになる。ではその「ゆらぎ」は何が原因でおきるのか、答えは始まりには原因がないという。その事のおきた原因の原因は何かと追求すれば、きりがなくなってしまうからである。

この無は全てを生み出す元であり、全てを包括するものであるという認識で現代物理学も仏教も一致しているのである。

この「ゆらぎ」は物質の振動である。私たちの生活には光、電波、音波など様々な目に見えない波長に、無意識レベルでつまれている。自然界には「1/f ゆらぎ」という特性があり、波動の持つパワーPとその波動の周波数fとの関係P=1/f ゆらぎとなる。

私たちが心地よいと感じる音にはこの「ゆらぎ」が存在している。この「ゆらぎ」を長年にわたる修行を重ねて、宇宙と一体の境地を体得した歴代の祖師方がいたのは紛れもない事実である。人間がこの波動を感知できるならば、溪流の音も新緑や紅葉の山の景色も、花も草木も一切が宇宙の波動に満ち満ちており、それらが説法しているのを聞くことができるというのである。不思議なワンダーランドの扉が開けるのである。

(つづく)

本間支部長「再就職支援室」総合相談員に就任！

編集後記

◇春の息吹きが感じられるようになりました。まずは調査・研究事業委員会の皆様お疲れさまでした。
◇まもなく新年度に入ります。平成15年度も活発な活動をしたいと思えます。

(佐瀬記)

平成15年1月8日(水) 県商工会連合会内に「再就職活動支援室」が設置されました。

これは厚生労働省が全国4カ所で実施する再就職支援モデル事業の一環で、廃業に追い込まれた自営業者とその従業員を対象に、再起業や再就職を積極的にバックアップして行くものです。

ここの総合相談員に、当支部本間支部長が委嘱を受けて就任し、その模様が地元紙にも採り上げられました。

〔同支援室 TEL.018-865-6030〕

県商工会連合会

再就職支援室を開設

15年1月8日(水) 県商工会連合会内に「再就職活動支援室」が設置されました。

これは厚生労働省が全国4カ所で実施する再就職支援モデル事業の一環で、廃業に追い込まれた自営業者とその従業員を対象に、再起業や再就職を積極的にバックアップして行くものです。

ここの総合相談員に、当支部本間支部長が委嘱を受けて就任し、その模様が地元紙にも採り上げられました。

〔同支援室 TEL.018-865-6030〕

県商工会連合会中央研修センター内に設置された「再就職活動支援室」の様子が写っています。